

秋田県議会議員 ともに、進もう。南秋田の元気と笑顔のために。

鈴木まみ

真実

県議会報告
VOL.4



2月議会において令和2年度で4回目の総括審査に挑みました!!

Q ウイズ・アフターコロナについて

県内でのコロナワクチン接種終了には約1年必要とし、国民に集団免疫が付くには3年かかるという。この3~4年という期間が、人口減少で悲鳴を上げている秋田県にとり、歴史的再生のきっかけと成り得る大事な期間としなければならないと考える。知事はいかがお考えか。

知事 コロナにより社会全体が変わってきており、原状回復とはならない分野があると思う。デジタル化、新しい産業、エネルギー革命、食料の世界的な切迫等について、これらの状況を見極め、分析をしっかりと行いながら、スピーディに対応し、この3~4年の間に、様々な対策を講じていくことが必要である。

Q 中山間地域における農業の展開について

知事が以前、「稲作が農業をダメにした」と話し驚いたことがあった。しかし、その後の取組みにより来年度で県内のメガ団地が50団地となり、平場における農業はこの5年で着実に成果を上げており、「秋田型ほ場整備」として全国に評価が高い。その担い手である若手農業者は、農業の継続と後輩の育成を視野に頑張っている。

一方、中山間地域では、少子高齢化が進行し、耕作放棄地も増加していることから、今後の対策が急務であるが、現状をどう分析しているか。中山間地域の方々が持続的に農業を営むことができるよう、重点的に取り組んで欲しい。それには、プロジェクトチームを設置し、プランを策定して「秋田型中山間地域農業(仮称)」を目指した新たな試みをすべきではないか。

農林水産部長 中山間地域は、ほ場整備率が66%と、平場の75%より1割程度低い。平成30年から農家負担がなく小規模でも実施可能なほ場整備が進んできている。

本県の農地は9割が水田であり、複合化の推進には、ほ場整備が不可欠で、今後4年間のほ場整備予定地区も中山間地域の方が多いことから、農地集積とほ場整備、複合化をセットで進めてまいりたい。ただし、面積が小さく、平場のようなメガ団地は物理的に整備できないことから、県域JA構想を見据え、全県の中山間地域である程度品目を絞り、オール秋田でロットを揃えて販売といった視点も必要と考えている。令和3年度内に策定する「第4期ふるさと秋田農林水産ビジョン」の中で検討する。

令和2年度県議会での主な活動実績

- 一般質問(1回) 12月議会(12.3)
- 総括審査(4回) ① 6月議会(7.3) ② 9月議会(10.5) ③ 10月議会(11.2) ④ 2月議会(R3.3.3)

Q 「食料供給基地 あきた」を目指して

知事は「秋田は豊かな農地に恵まれ、食料供給基地としての優位性を有しているから強みを伸ばす」と発言している。本県の農業産出額は、伸び率は高いものの、実額では東北最下位で、5位の宮城県とは100億円程度の差があり、食料供給基地と銘打っていくには厳しいものがあると考えている。今後、県として、どのような手を打っていくのか。

農林水産部長 本県は食料自給率が190%で、野菜等も9割が県外に出荷されていることから、食料供給県であるものと認識している。

一方、農業産出額は東北最下位であるが、5位の宮城県との差が、平成26年に156億円だったものが、平成30年には96億円まで縮小している。(令和元年は実績で1億円まで縮小)

今後も、複合型生産構造への転換や、スマート農業等の先端技術の導入による生産性の向上、基盤となるほ場整備を進めていくという基本的な方向性は変えずに取り組んでいく。

知事 農家所得を考えると、主食である米を守りつつ、時流に合った他の作物を生産する複合経営への転換を進める必要がある。

Q 男女共同参画と女性活躍推進について

ダイバーシティ(=多様性)の社会が求められている。女性は自ら持っている能力をその場で生かすという覚悟を持つことが大事であると考えている。今後も女性が能力を発揮できる環境作りを推進していただきたい。女性活躍推進において、女性管理職に期待するものはなにか。

知事 男女の区別なく、男性も女性も県民の気持ちを受け取ってしっかり仕事をしていくことが重要な要素と考える。

県民と自由民主党会派をコネク

Link

リンク

2021.3 No.38

県民のために働く ~県民の命と暮らしを守る~

ごあいさつ

自由民主党会派 会長 鶴田 有司

日頃より秋田県議会自民党会派に対するご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年9月に、菅義偉内閣総理大臣が秋田県出身として初めて就任されたことは大きな喜びとともに県民の誇りであり、郷土愛を強く持っておられますので秋田をはじめ地方の課題解決が期待されています。

さて、新型コロナウイルス感染症対策は厳しい状況が続いており、コロナ禍を想定した「新しい生活様式」が求められています。秋田県では、感染拡大による地方回帰を見据え、在宅・遠隔勤務などの「リモートワーク」を活用した移住の推進を、全国紙への広告掲載や首都圏の約4千社を対象にしたアンケート調査が目玉として注目を集めています。

私たち自民党会派は、本県の地域特性を活かし、安全で安心な生活の実現を目指して、秋田県所属国会議員とともに力をあわせて県民のために働いて参りますので、さらなるご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



●春の八郎湯町



秋田県議会議員
鈴木 真実

本当に早いもので、県議会議員に当選させていただいてから2年が経ちました。

1年目は、県議一期生という立場で、本会議、委員会、県内外の調査視察研修、様々な会議・イベントへの参加、県民の皆様からの要望対応などで、まずは何でもチャンス、何事も学びの場ととらえ、果敢に挑戦しました。

2年目は、新型コロナウイルス感染症の拡大という世界が経験したことのない危機的状況にあって右往左往したのも事実ではありますが、ウイズ・アフターコロナへの対応、人口減少問題解決のための若い女性の定住や女性活躍推進、2050脱炭素社会の実現を目指した政策など県の重要課題について積極的に提言してきました。

令和3年度は、一期4年の折り返しの年になります。最初に誓ったスローガン「ともに進もう。南秋田の元気と笑顔のために。」を皆様に実感していただいているでしょうか。「きめ細かい女性の視点を大切に、男性も女性も、子どもも高齢者も、一人ひとりが活躍できる秋田」のために、多くの反省も踏まえ、改めて原点に戻り、さらに活動を充実させながら謙虚に頑張りますので、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

皆様からの、意見、要望、陳情、要請などは
自由民主党秋田県南秋田郡第一支部 支部長 鈴木真実

〒018-1513 南秋田郡井川町黒坪字小泉36

TEL・FAX 018-874-2112 E-mail : suzuki-mami@cd.wakwak.com

県民と自由民主党
会派をコネク
Link

発行/令和2年3月10日
ご質問、ご意見をお聞かせください。
編集/秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王四丁目一番一号【県議会内】
電話 018-860-2040 FAX 860-2102

